雲20

平成23年度
出雲市文化財調査報告書

山持遺跡・小山遺跡

2012年3月
出雲市教育委員会

序

本書は，出雲市教育委員会が出雲市都市整備部から委託を受けて，平成19・20年度に実施した，市道改良工事の予定地内に所在する小山遺跡及び山持遺跡の発掘調査の成果をとりまとめたものです。

これらの遺跡からは，土師器・須恵器・陶磁器などの遺物が出土し，出雲平野における人々の生活の痕跡を示す貴重な資料を得ることができました。

この調査成果が，出雲地域の歴史を解明していく上での大切な資料のひとつとして，埋蔵文化財の理解や歴史学習等に利用され，地域の歴史資産活用の一助となれば幸いです。

最後になりましたが，このたびの発掘調査と報告書の作成にあたり地元の皆様や，関係各方面のご理解とご協力をいただきました事に，心から厚くお礼申しあげます。

平成24年（2012）3月

出雲市教育委員会

教育長　中　尾　一　彦

例　言

本書は，平成19・20年度に出雲市教育委員会が実施した山持遺跡及び小山遺跡の調査報告である。

1．発掘調査は下記の期間に実施した。

（平成19年度）　小山遺跡　　平成19年（2007）5月18日～6月14日

（平成20年度）　山持遺跡　　平成21年（2009）1月 6 日～1月 9 日

2．発掘調査地は次のとおりである。

山持遺跡　出雲市里方町406番地1

小山遺跡　出雲市小山町765番地1・773番地1

3．調査組織は次のとおりである。

調査主体　　出雲市教育委員会

平成19年度（2007）

調査指導	林　健亮	（島根県教育庁文化財課主幹）
事 務 局	花谷　浩	（出雲市文化観光部次長兼学芸調整官）
	石飛幸治	（同　文化財課課長）
	川上　稔	（同　主査）
	景山真二	（同　埋蔵文化財係係長）
調 査 員	遠藤正樹	（同　主事）
調査補助員	成相幸子	（同　臨時職員）
	藤田大輔	（同　臨時職員）

平成20年度（2008）

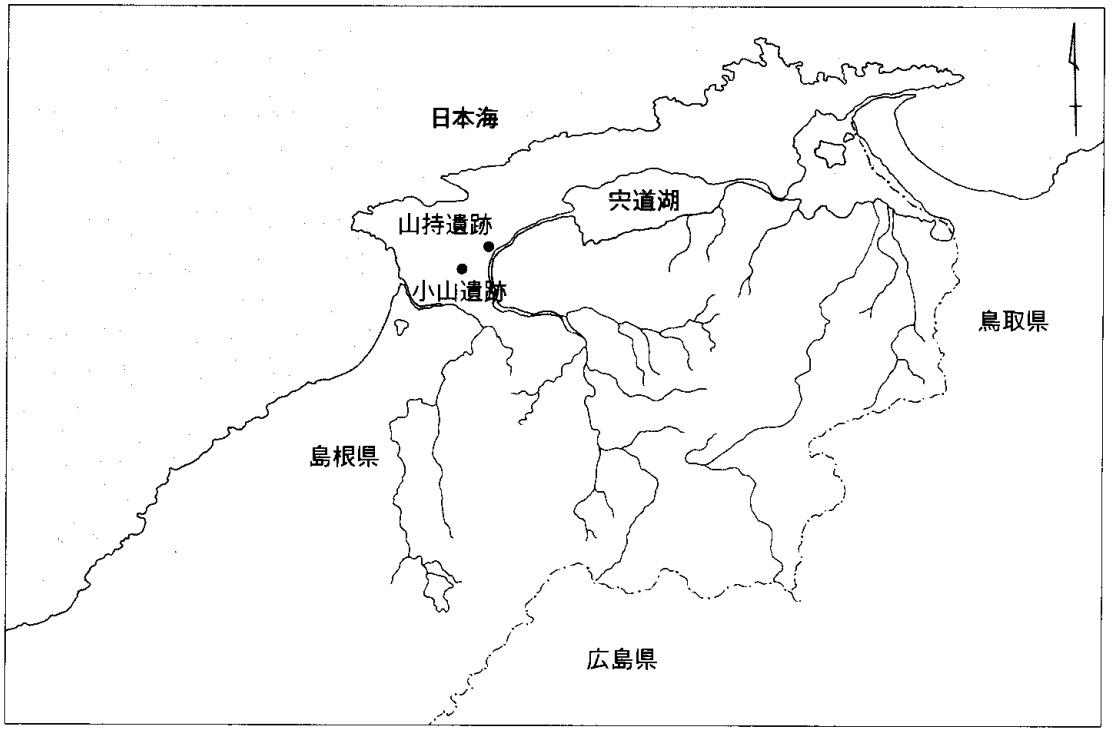
調査指導	池淵俊一	（島根県教育庁文化財課企画員）
事 務 局	花谷　浩	（出雲市文化企画部次長兼学芸調整官）
	石飛幸治	（同　文化財課課長）
	景山真二	（同　埋蔵文化財係係長）
調 査 員	遠藤正樹	（同　主事）

4．本書で用いたXY座標は世界測地系Ⅲ系であり，方位は座標北を示し，レベル高は海抜高を示す。

5．遺物の実測は遠藤・成相が行い，図面の浄書は飯國陽子，高橋節子，吹野初子，細野陽子，前島浩子（以上文化財課室内整理作業員）が，報告書編集の補助を和田みゆき（臨時職員）が行った。

6．本書の執筆と遺構写真撮影は遠藤が，編集及び遺物写真撮影は曽田が行った。

7．本報告書掲載の遺物及び実測図，写真は出雲市教育委員会が保管している。



山持遺跡・小山遺跡の位置

参考文献

出雲考古学研究会　1986「出雲平野の集落遺跡Ⅱ－矢野遺跡とその周辺」『古代の出雲を考える 5』

出雲市教育委員会　2006『門前遺跡発掘調査報告書』

島根県古代文化センター　2005『大寺 1 号墳発掘調査報告』

島根県教育委員会　2004『青木遺跡（中近世編）国道 431 号道路改築事業建設予定地内発掘調査報告書 1』

島根県教育委員会　2007『山持遺跡 Vol.2（Ⅱ・Ⅲ区）国道 431 号線道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』

島根県教育委員会　2007『山持遺跡 Vol.3（4 区）国道 431 号線道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ』

島根県教育委員会　2011『山持遺跡 Vol.7（6 区）国道 431 号線道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 9』

田中義昭・島根大学山陰地域研究総合センター　1992
『古代金属生産の地域的特性に関する研究―山陰地方の銅・鉄を中心にして』

本　文　目　次

第1章　山持遺跡の調査 …… 1
第1節　調査に至る経緯 …… 1
第2節　位置と環境及び過去の調査 …… 1
第3節　調査の成果 …… 3
第4節　まとめ …… 4
第2章　小山遺跡の調査 …… 5
第1節　調査に至る経緯 …… 5
第2節　位置と環境及び過去の調査 …… 5
第3節　調査の成果 …… 7
第4節　まとめ …… 12

挿　図　目　次

第1図　山持遺跡の位置と周辺の遺跡（1：25000） …… 1
第2図　調査位置及び過去の調査範囲（1：10000） …… 2
第3図　調査区全体図及び土層堆積状況（1：100） …… 3
第4図　山持遺跡出土遺物（1：3） …… 4
第5図　小山遺跡の位置と調査区及び周辺の遺跡（1：10000） …… 6
第6図　東調査区遺構図及び土層堆積状況（平面図1：100　断面図1：50） …… 7
第7図　西調査区遺構図及び土層堆積状況（平面図1：100　断面図1：50） …… 8
第8図　小山遺跡出土遺物（1：3） …… 11

表　目　次

表1　平成19年度調査の小山遺跡遺構一覧 …… 9
表2　小山遺跡遺構番号対照表（1） …… 13
表3　小山遺跡遺構番号対照表（2） …… 14
表4　小山遺跡遺構番号対照表（3） …… 15
表5　小山遺跡遺構番号対照表（4） …… 16

写　真　図　版　目　次

図版1　1. 山持遺跡調査区全景（北から）
2. SK 01 土層堆積状況（東から）
3. 西壁土層堆積状況（東から）
4. SK 02 土層堆積状況（東から）
5. 出土遺物

図版2　1. 小山遺跡遺構検出状況（西から）
2. 小山遺跡遺構検出状況（東から）
3. SD 6018 検出状況（南から）
4. SK 6002 土層堆積状況（南から）
5. SE 6020 土層堆積状況（北から）

図版3　小山遺跡出土遺物
1～6. 須恵器
7～11. 陶磁器

第１章　山持遺跡の調査

第１節　調査に至る経緯

出雲市都市整備部道路建設課（以下「道路建設課」という）が計画する今市川跡日下線（2工区）道路改良事業において，事業区域の一部が山持遺跡の範囲内に及ぶこととなった。

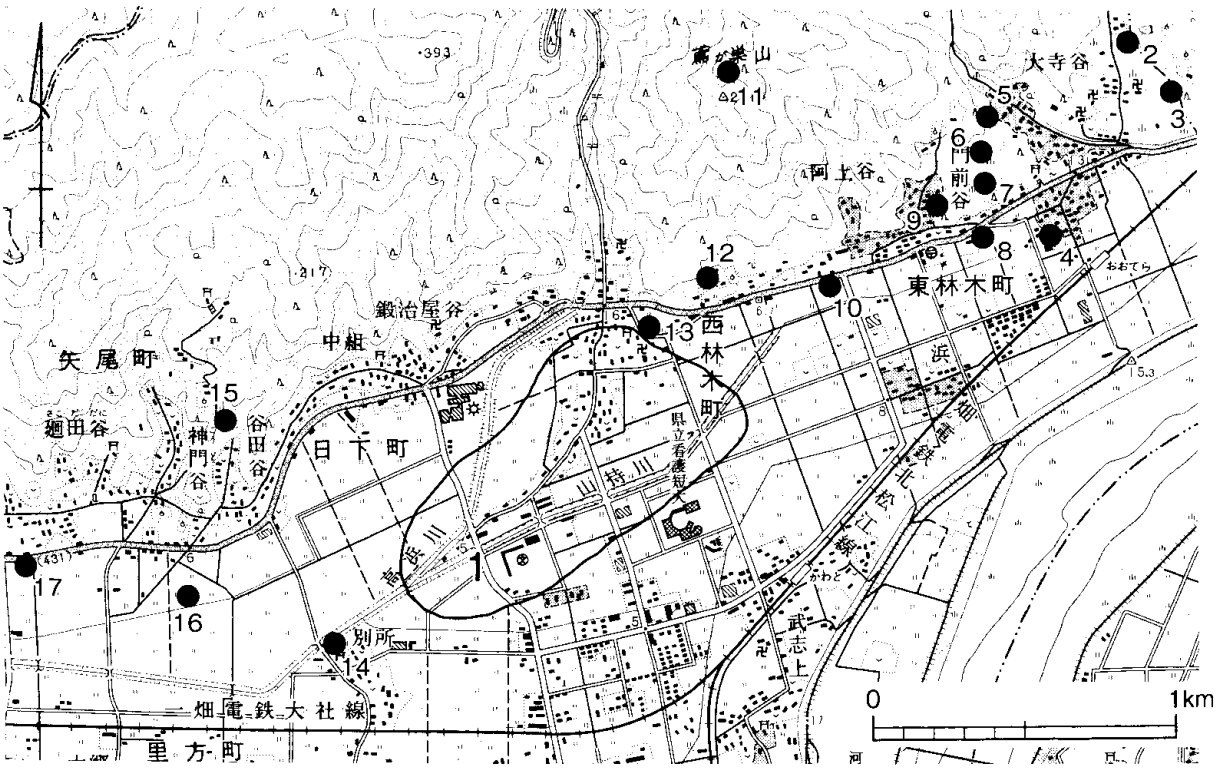
そこで，道路建設課は出雲市教育委員会を通じて，文化財保護法第94条第1項に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事の通知（道建第241号）を，平成20年（2008）9月22日に島根県教育委員会へ提出した。これを受けて，島根県教育委員会は，平成20年（2008）10月2日に道路建設課に対して発掘調査が必要であることを通知した（島教文財第2号の35）。

出雲市教育委員会は，道路建設課から事前の発掘調査の依頼を平成20年（2008）11月13日に受け，道路拡幅部分のうち23 m² について調査を実施するに至った（同月26日付け受託契約）。

現地調査期間は，平成21年1月6日から1月9日までである。

第２節　位置と環境及び過去の調査　（第1・2図）

山持遺跡は，出雲平野の北東，現在の出雲市西林木町から里方町に及ぶ東西約700 m の範囲に広がっている。調査区は北山山麓にある小扇状地のひとつである伊努谷扇状地の前面に位置している。



1．**山持遺跡**　2．大寺古墳群　3．大寺三蔵遺跡　4．青木遺跡　5．平林寺山古墳群　6．膳棚山古墳群　7．傘屋背後横穴墓群　8．古前背後横穴墓群　9．古前西北崖上横穴墓　10．門前遺跡　11．鳶ヶ巣城跡　12．東組遺跡　13．龍善寺東遺跡　14．里方別所遺跡　15．矢尾横穴墓群　16．里方本郷遺跡　17．下澤遺跡

第１図　山持遺跡の位置と周辺の遺跡（1：25000）

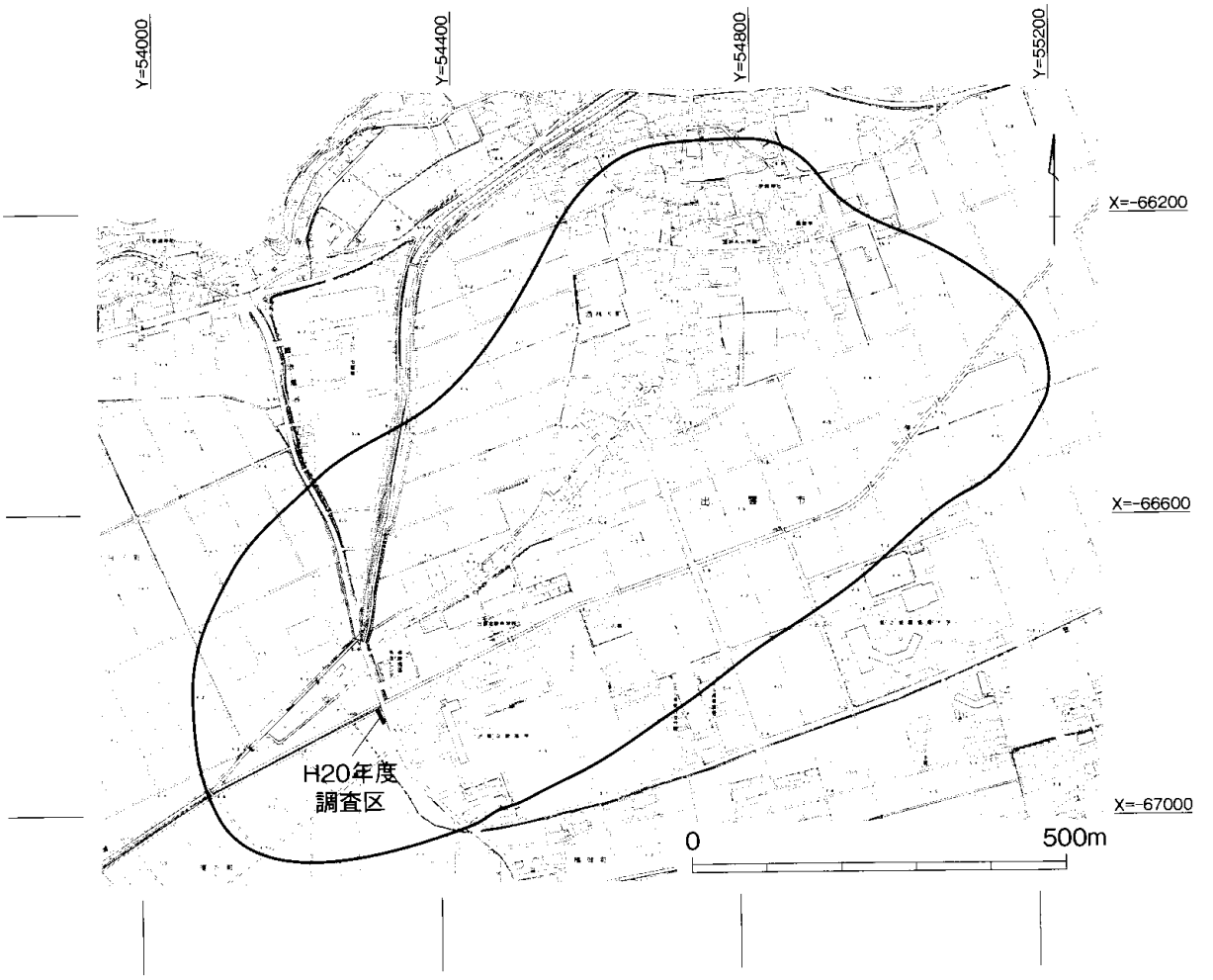
本遺跡周辺には，約 1.5 km 東に青木遺跡がある。四隅突出型墳丘墓をはじめ，奈良平安時代にかけての木簡や墨書土器と共に建物跡が確認され，集落跡としても知られる。

今回の調査で，本遺跡からは古墳時代前期の遺物が主に出土している。古墳時代の遺跡としては，約 2 km 東の北山山中に前期古墳の大寺１号墳があり，小型の竪穴式石室をもつ，出雲平野で最古の前方後円墳として知られている。このほかには，古前西北崖上横穴墓や矢尾横穴墓群等の多くの横穴墓も確認されており，古墳時代の遺跡が広がっている。

また，北山山麓には戦国時代に毛利元就が尼子征伐のために設けた鳶ヶ巣城があり，長期にわたる人々の生活の痕跡を見ることができる。西には中世の水田跡等が確認された下澤遺跡がある。

過去の山持遺跡の調査では，昭和 55 年（1980）・平成６年（1994）に出雲市が調査を実施し，弥生時代終末期の土器が多量に出土している（当時は山持川川岸遺跡と呼称）。また，島根県埋蔵文化財調査センターの調査により，朝鮮半島系の楽浪土器・勒島式土器が出土していることなどから，日本海沿岸地域の交易拠点であった可能性も指摘されている。近年では，平成 14 年（2002）から平成 22 年（2010）まで東林木バイパス建設に伴う発掘調査が続けられ，大量のガラス小玉（5 世紀頃）や古代の木簡や板絵（8～9 世紀初）が出土しているほか，８世紀後葉の道路遺構も確認されている。

※網かけ部分は島根県教育委員会の調査（第２図）



第２図　調査位置及び過去の調査範囲（1：10000）

第3節　調査の成果

過去の周辺での調査結果から，表土下130 cm以上の深さで遺構面の存在が想定された。調査範囲が狭く，多量の湧水も予想されたため，重機を併用しながら土層堆積状況を記録し遺物の有無を確認した。

土層堆積状況（第3図）

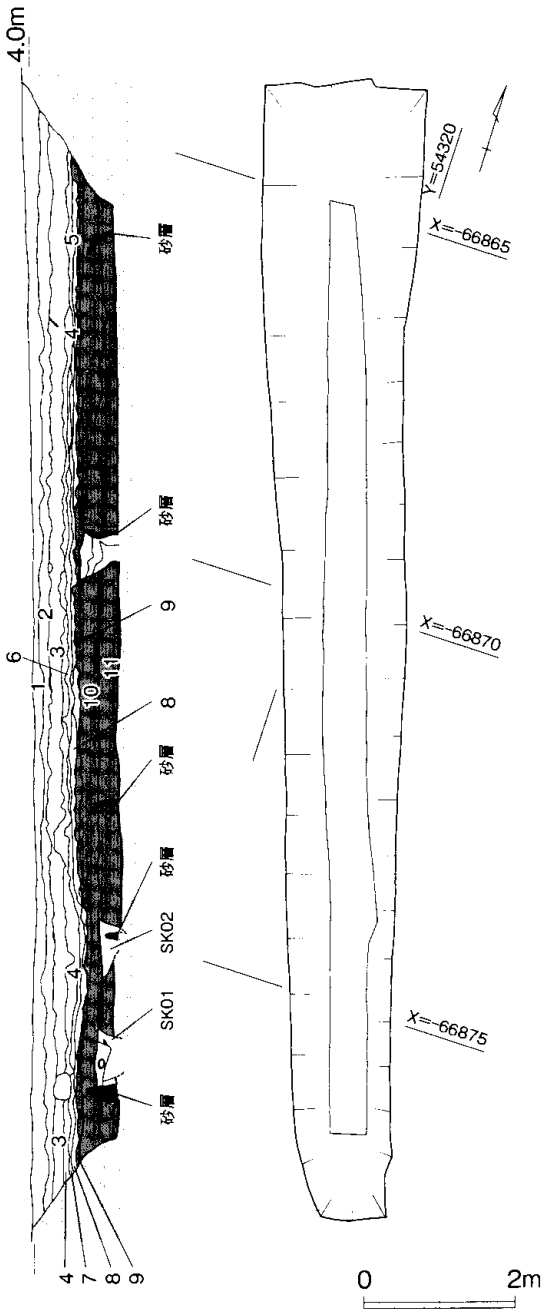
土層は耕作土以下，大別すると，粘質土が11層堆積していた。第2層から第4層にかけては酸化鉄を含む粘質土層が堆積し，以下は褐色・灰色の粘質土が堆積していた。

第9～11層は遺物包含層で，弥生時代後期から古墳時代後期までの遺物を包含するが，包含層中での出土層位は明確でない。

また，平面的に遺構は検出できなかったものの，調査区東側壁面では第11層上面から土坑2基（SK 01，SK 02）が掘り込まれていることを確認した。SK 01からは多量の炭化物とともに古墳時代前期後半の土師器の小壺の完形品が出土しており，第11層上面は同時期の生活面である可能性がある。

第10・11層では，粘質土に貫入する砂層を確認した。

過去の調査結果からは掘削停止面以下にも遺物・遺構が存在する可能性があったが，湧水等により調査の安全確保ができなくなったため，それ以上の調査は断念した。

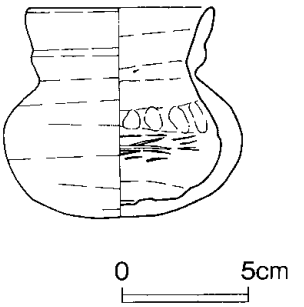


1．耕作土　2．灰褐色粘質土（酸化鉄多量に混入）
3．褐灰色粘土（酸化鉄混入）4．青灰色粘土（酸化鉄混入）
5．明褐色粘土　6．灰色粘土　7．暗灰色粘土
8．暗青灰色粘土　9．暗褐色粘土　10．褐色粘土
11．暗灰色粘土
＊第9～11層は遺物包含層

第3図　調査区全体図及び土層堆積状況（1：100）

出土遺物（第4図）

第4図はSK01出土の土師器小壺である。時期は，古墳時代前期。口径は7.4 cm，器高は8.3 cm。口縁部は外方に直線的に立ち上がり，外面中ほどに沈線を施す。端部は丸く仕上げている。口縁部内外面ともナデ調整，体部は内面にヘラ削り，粗いナデ，圧痕が施されているが，外面は風化が著しく詳細は不明である。



第4図　山持遺跡出土遺物（1：3）

第4節　まとめ

調査の結果，第9～11層の遺物包含層からコンテナ1箱分の遺物が出土した。遺物の時期は，弥生時代後期から古墳時代後期までである。また，第11層上面で古墳時代前期後半の遺物を包含する土坑を確認し，この時代の遺構面が存在することが分かった。

第10・11層の堆積土に貫入していた砂層は，地震に伴う噴砂の可能性もあるが，時期を含め判然としなかった。

第2章　小山遺跡の調査

第1節　調査に至る経緯

出雲市都市整備部道路河川維持課（以下「道路河川維持課」という）が計画する，市道四絡69号線生活環境道路改良事業において，事業区域が小山遺跡の範囲内に及ぶ可能性があるため，平成18年（2006）8月8日に道路河川維持課から出雲市文化観光部文化財課（以下「市文化財課」という）に事前調査の依頼があった。

事業予定地周辺は，これまでに5度の調査が実施され，埋蔵文化財包蔵地であることが確認されていたことから，事業地内に西側からトレンチ（T−1〜T−7）を設定し，試掘調査を実施した。

調査の結果，T−4でのみ遺構・遺物が確認でき，隣接するT−3，5では確認できなかった。近隣での過去の土層堆積状況と併せて検討した結果，T−4周辺の区間約110 m^2 について本調査が必要であると判断し，市道路河川維持課（平成19年1月9日付け，文書）に報告した。本調査は平成19年5月18日から6月14日まで実施した。

（関係文書）平成19年

4月13日	埋蔵文化財発掘の通知（道河第369号）	市教育委員会から県教育委員会へ
5月7日	埋蔵文化財発掘調査の通知（文財第91号）	市教育委員会から県教育委員会へ
6月14日	県文化財課に概要報告及び意見書（文財第189号）	市教育委員会から県教育委員会へ
6月14日	埋蔵文化財保管証及び埋蔵文化財発見届	市教育委員会から県教育委員会・出雲警察署へ

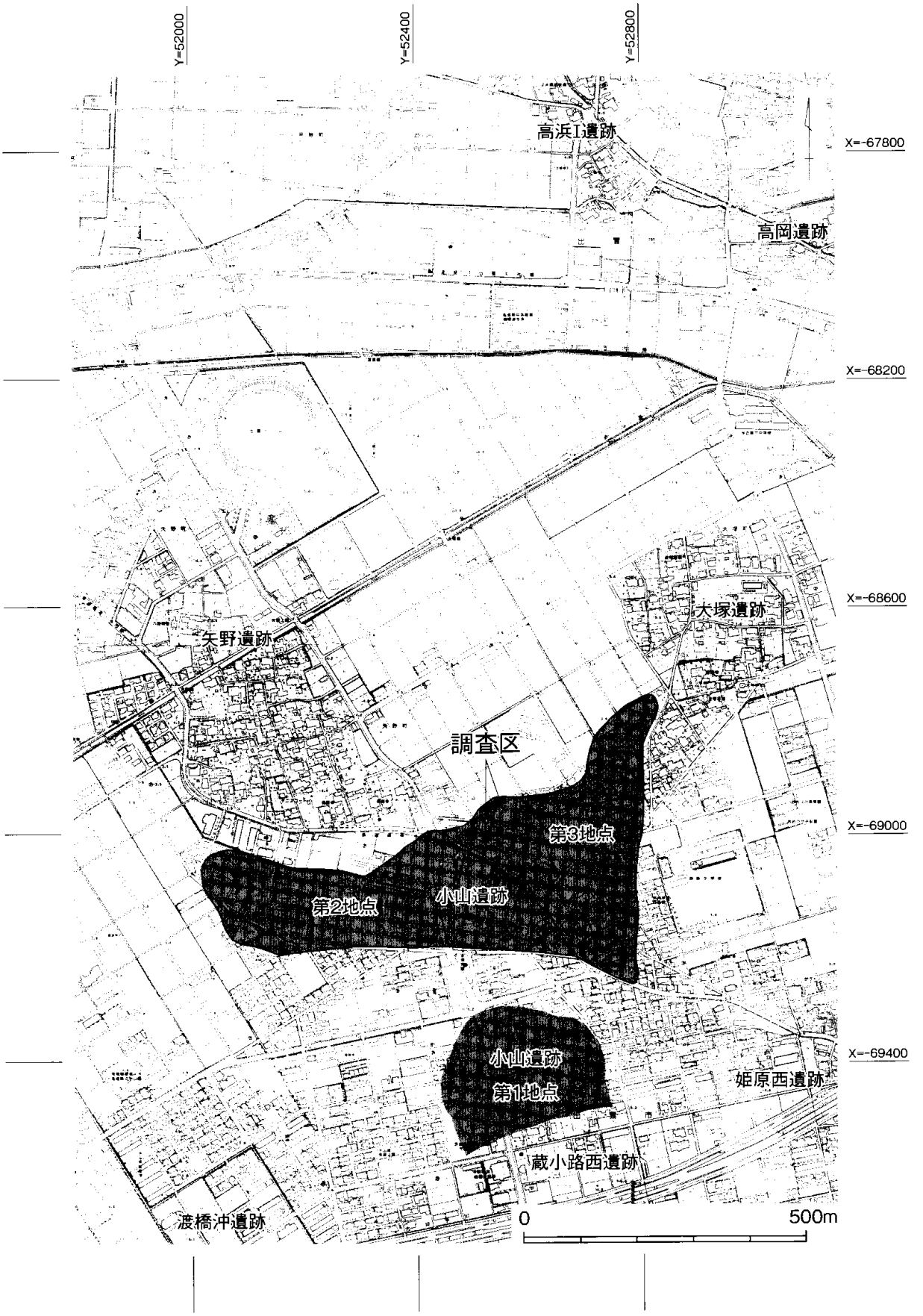
第2節　位置と環境及び過去の調査（第5図）

小山遺跡は島根県最大の平野である出雲平野のほぼ中央に位置している。この周辺は遺跡の密集地帯となっており，矢野遺跡・大塚遺跡等と共に四絡遺跡群とも称されている。四絡遺跡群の調査は，出雲考古学研究会や島根大学山陰地域研究総合センターによって，1980年代後半から行なわれている。

その中で，出雲考古学研究会の調査（1986年）において，小山遺跡は矢野遺跡の南に位置する集落跡であることが明らかにされた。そして，島根大学山陰地域研究総合センターの田中義昭氏による調査（1989年）では，弥生時代後期の溝や土坑が確認されている。

小山遺跡は，遺跡の範囲が3箇所に分かれており，それぞれ第1地点，第2地点，第3地点と呼称されている（第5図）。第3地点の調査は，出雲市教育委員会によって平成6年度から平成16年度の間に第5次調査まで実施し，弥生時代の大溝や古墳時代の落ち込み状の遺構、墨書土器等を確認している。今回の調査箇所はこの第3地点の範囲に含まれる。

本報告書では，これまでの出雲市教育委員会による小山遺跡発掘調査の遺構について，第1〜3地点の地区分けをなくしたうえで通し番号として再整理し，取り扱うことにする。過去の関係する報告書は12ページ以下のとおりであるまた，出雲市教育員会による発掘調査報告書の各遺構番号との対照については，表2〜5（13〜16ページ）のとおりとする。



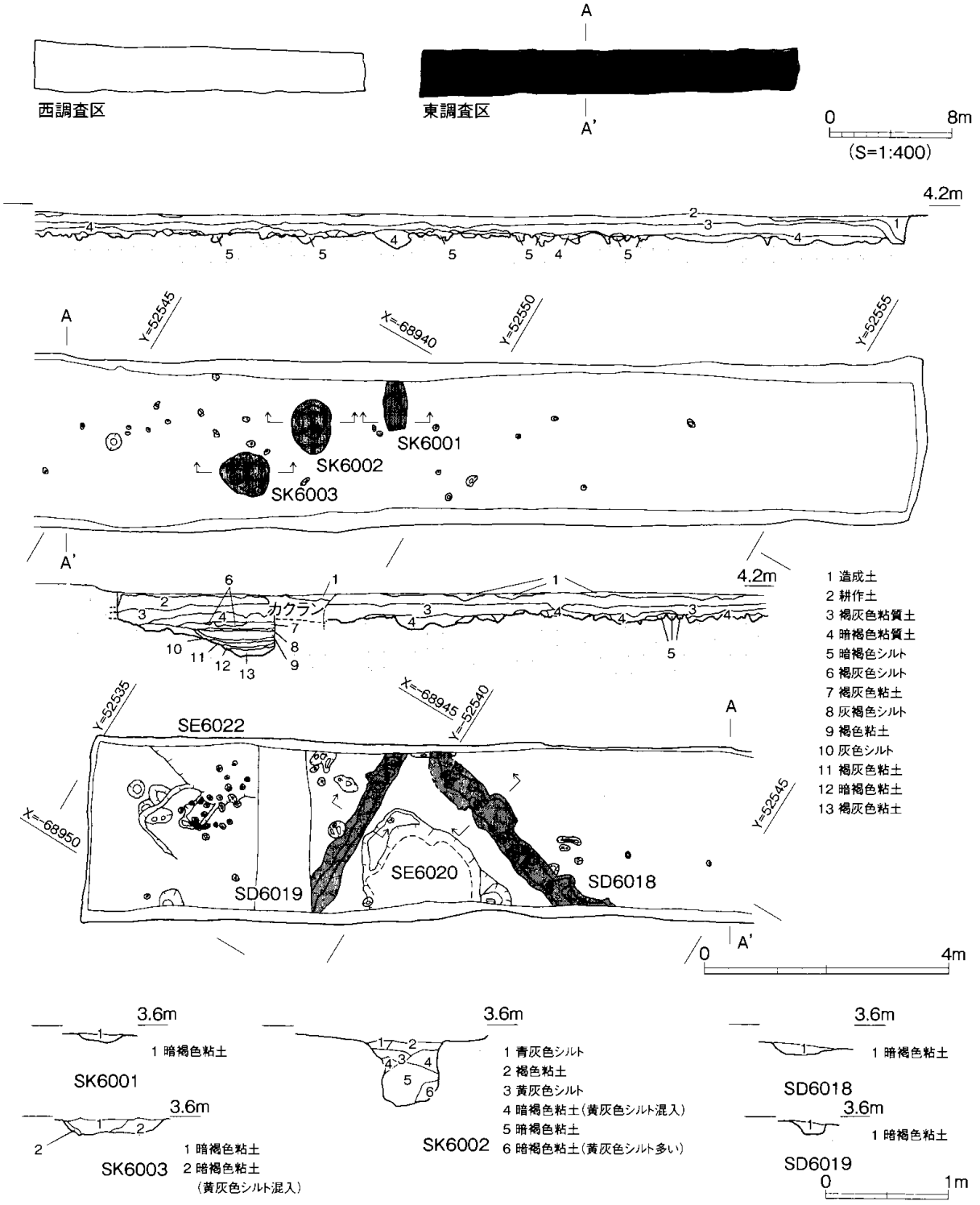
第５図　小山遺跡の位置と調査区及び周辺の遺跡（1：10000）

第３節　調査の成果

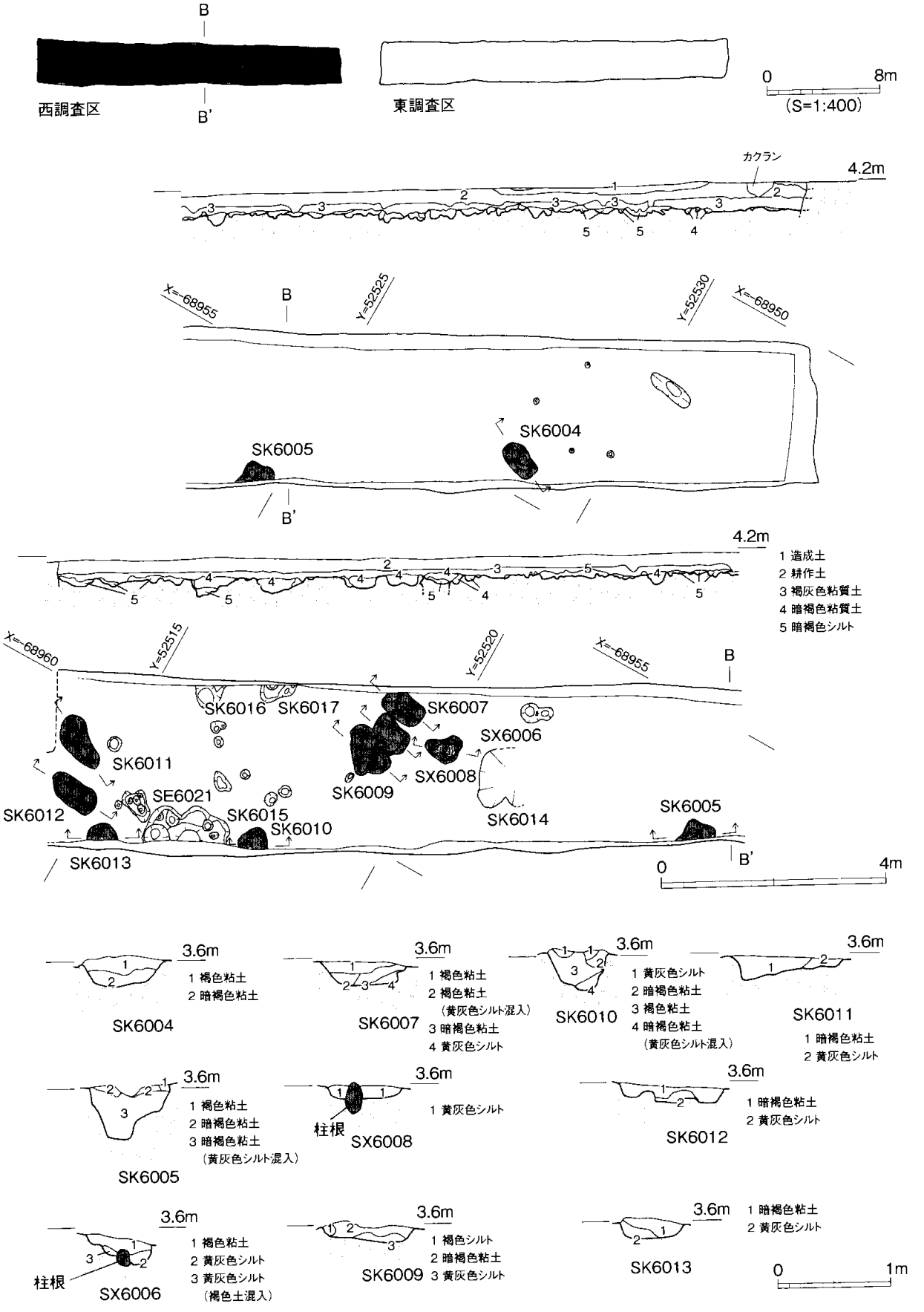
調査対象区域は，試掘調査で遺構・遺物の確認された2.5ｍ×50ｍの道路拡幅部分である。東調査区と西調査区に分けて実施した。

層序・遺構（第６・７図・表１）

基本的な層序は,６層に分けられ,遺構面は第５層下の暗褐色シルト層で検出した。遺構は,溝２条・土坑17基・井戸３基・小ピットを多数確認した。主な遺構の規模及び出土遺物は表１のとおりである。



第６図　東調査区遺構図及び土層堆積状況（平面図１：100　断面図１：50）



第７図　西調査区遺構図及び土層堆積状況（平面図１：100　断面図１：50）

溝は，調査区の中央に2条，SD 6018が東西方向にSD 6019が南北方向に向いていた。SD 6018からは，須恵器の杯が出土している。

土坑のうち遺物の出土を伴うものは13基。ほとんどが土器の細片であったが，SK 6002からは横瓶片が出土した。半裁された体部片が口を上に向けて埋められていた。用途は不明である。このほか，土坑からは製塩土器片や赤彩土器片も出土している。また，SX 6006，SX 6008からは柱根を確認している。

井戸（SE 6020，6021，6022）からは須恵器，土師器，赤彩土器が出土。SE 6020からは五輪塔，石臼も出土している（図面は非掲載）。

表1　平成19年度調査の小山遺跡遺構一覧

遺構名	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出　土　遺　物
SK 6001	0.82～	0.37	0.07	なし
SK 6002	0.91	0.65	0.53	須恵器：横瓶
SK 6003	0.80	0.73	0.28	なし
SK 6004	0.72	0.42	0.28	土師器片，須恵器片，赤彩土器片，陶磁器片
SK 6005	0.76	0.42～	0.49	土師器片，須恵器片，赤彩土器片，製塩土器片
SX 6006	0.66	0.48	0.58	柱根あり，須恵器小片
SK 6007	0.76	0.49	0.42	土師器片，須恵器片，赤彩土器片，製塩土器片
SX 6008	0.71	0.52～	0.25	柱根あり，土師器片，須恵器片，赤彩土器片，土師質土器片
SK 6009	0.98	0.66～	0.38	土師器片，須恵器片，土師質土器片
SK 6010	0.53	0.40～	0.74	土師器片，須恵器片，赤彩土器片
SK 6011	1.03	0.54	0.42	土師器片，須恵器片，赤彩土器片，製塩土器片
SK 6012	0.94	0.48	0.38	土師器片，製塩土器片
SK 6013	0.56	0.32～	0.37	土師器片，須恵器片，赤彩土器片
SK 6014	1.57～	0.71～	0.43	土師器片，須恵器片，赤彩土器片，青磁，土師質土器片，桃の種
SK 6015	0.56	0.42～	0.29	土師質土器片
SK 6016	0.66	0.35～	0.12	なし
SK 6017	0.64	0.42	0.19	なし
SD 6018	3.89～	0.50	0.10	須恵器片
SD 6019	3.01～	0.40	0.11	なし
SE 6020	2.46～	1.65～	0.80～	須恵器片，赤彩土器片，五輪塔，石臼
SE 6021	2.48～	1.42～	0.55～	須恵器片，土師器片，赤彩土器片，製塩土器片
SE 6022	1.76～	1.06～	0.78～	須恵器片，土師器片，土師質土器片，赤彩土器片

出土遺物（第８図）

1～6 は須恵器である。1・2 は SD 6018 出土の杯で，口縁部は内湾し，端部が外側に広がる。体部の内外面と底部内面は回転ナデ調整。1 の底部外面には，回転糸切が確認できる。また 2 は器壁下方に回転ヘラ削り調整が施されており，口唇部外面に重ね焼きの痕跡が残る。

3 は SK 6010 出土の高台付杯で，時期は 8 世紀後半頃である。口縁部は外方に直線的に立ち上がり，外反気味となる。端部は丸い。内外面ともに回転ナデ調整を施している。

4 は SK 6009 出土の蓋で，直線的に広がった後やや外反する。端部は下方に屈曲し，内側には明確な沈線が施されている。端部は丸く仕上げている。内外面ともに回転ナデ調整。

5 は SE 6020 出土の甕の胴部片で，内面に当て具痕及びナデ調整，外面に平行タタキを施している。

6 は SK 6002 出土の横瓶である。内面に当て具痕，外面には平行タタキの後カキ目を施している。外面に粘土塊が付着している。

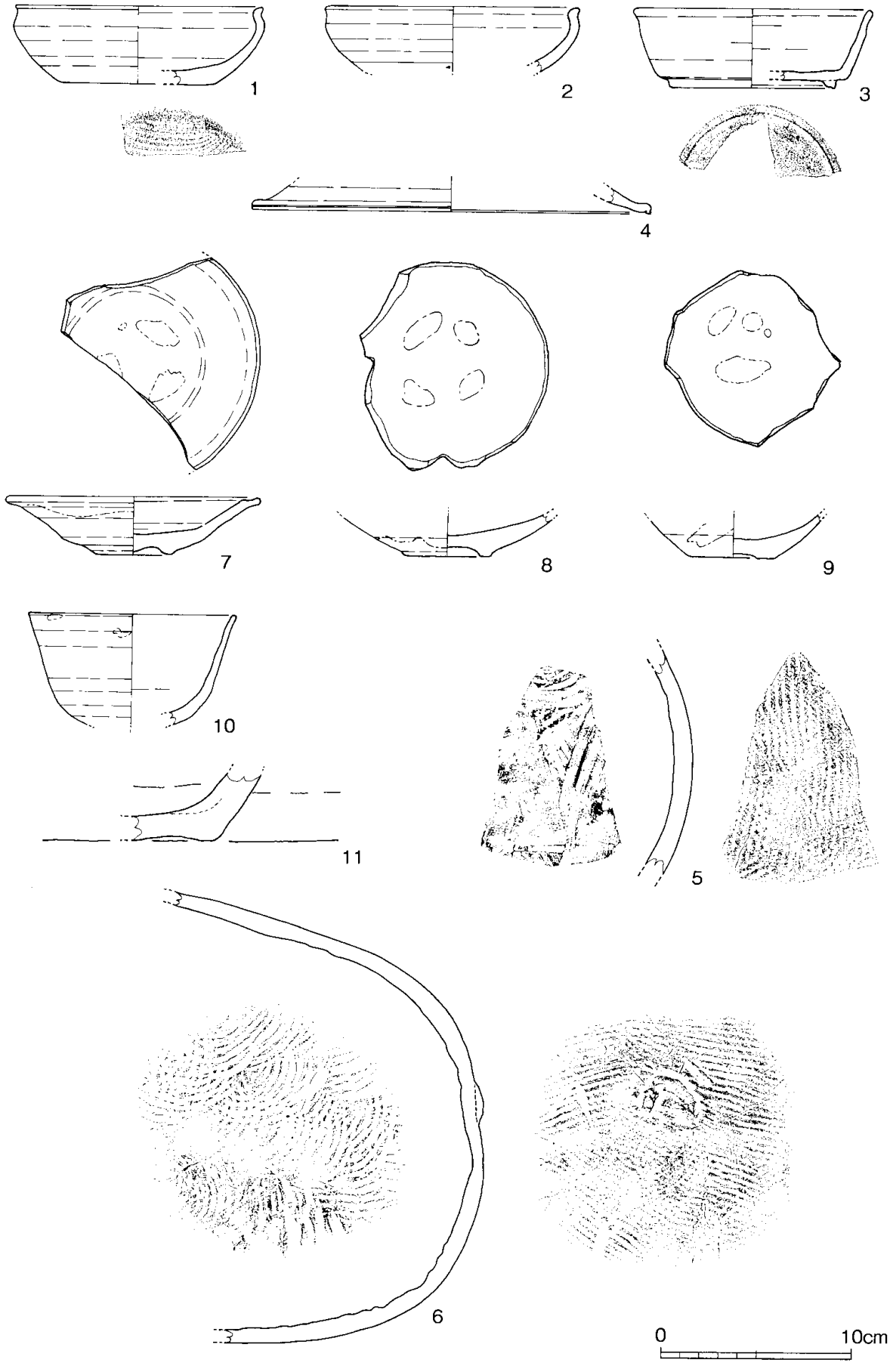
7～11 は SE 6020 出土の遺物で，7～10 は肥前系の陶器である。時期は 17 世紀頃のものである。7 は皿で，外方に直線的に立ち上がった後，外側に水平に伸び，端部は上方に屈曲する。端部は丸く仕上げている。内外面ともに回転ナデ調整後施釉（貫入あり）するが，外面下方には露胎を残し，高台は削り出しとしている。内面見込には砂目積みの痕跡が残る。

8 は皿で，口縁部は欠損しているが，器壁は内湾気味に立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整後薄く施釉し，外面下方に露胎を残す。高台は削り出し，高台見込を深く抉って三日月高台としている。内面見込に砂目積みの痕跡が残る。

9 は皿で，口縁部は欠損しているが，器壁は内湾しながら上方に伸び，口縁端部に向けてやや水平になる。内外面ともに回転ナデ調整後施釉し，外面下方に露胎を残す。底部は回転糸切後，高台見込を抉り出している。内面見込に砂目積みの痕跡が残る。なお，外面に煤及び油が付着している。

10 は椀で，外方に直線的に立ち上がり，端部は丸く仕上げている。内外面ともに回転ナデ調整を施し，施釉している。底部は欠損しているが，器壁下方に回転ヘラ削り調整が残ることから，高台は削り出し高台であったものと考えられる。

11 は備前焼甕の底部で，15 世紀後半以降のものである。内外面ともにナデ調整を施している。



第8図　小山遺跡出土遺物（1：3）

第４節　まとめ

遺跡の時期は，古代から近代までの長期に及んでいた。遺構面が削平されている箇所が多かったことから不明な点が多いものの，土坑・井戸などは下部構造が比較的良く残っていた。

なかでも，SK 6002 の底部には横瓶の体部片が器状に置かれ，出土した。この用途は不明だが，何らかの容器として使用された可能性もある。

また，これまで小山遺跡の範囲は，今回の調査地がその北端であると考えられていた。しかしながら，遺構の検出状況からみると遺跡の縁辺部といった様相はなく，今回の調査において，従来考えられていたよりも遺跡の範囲はさらに北側に広がっていることが分かった。

（過去の小山遺跡に関係する報告書）

第１地点ほか

出雲考古学研究会　1986　「出雲平野の集落遺跡Ⅱ－矢野遺跡とその周辺」『古代の出雲を考える５』

田中義昭・島根大学山陰地域研究総合センター　1992

『古代金属生産の地域的特性に関する研究－山陰地方の銅・鉄を中心にして』

第２地点

出雲市教育委員会　1998　『小山遺跡第２地点発掘調査報告書』

第３地点

第１次調査　出雲市教育委員会　1996　『小山遺跡』　出雲市埋蔵文化財調査報告書　第６集

第２次調査　出雲市教育委員会　1999　『小山遺跡発掘調査報告書』

第３次調査　出雲市教育委員会　2002　『小山遺跡第３地点発掘調査報告書』（第３次発掘調査）

第４次調査　出雲市教育委員会　2002　『小山遺跡第３地点発掘調査報告書』（第４次発掘調査）

第５次調査　出雲市教育委員会　2005　『小山遺跡第３地点発掘調査報告書』（第５次発掘調査）

第６次調査　本報告

註） 過去に，出雲市教育委員会によって発掘調査を行った小山遺跡第２地点及び第３地点については，遺構番号を新たに振り直した。その上で第１地点，第２地点，第３地点の地区分け表記を廃止し，出雲市教育委員会が実施した小山遺跡の遺構については，次ページ（表2～5）のとおりに呼称することとする。

表２　小山遺跡遺構番号対照表（1）

報告書名	調査地点等	調査区	報告書遺構No.	挿図番号	報告書掲載ページ	変更後遺構No.
『小山遺跡』 出雲市埋蔵文化財 調査報告書 第６集 1996	第３地点 第１次調査	１区	SK－01	第６・７図	9	SK 1001
			SK－02	第８・９図	10	SK 1002
			SK－03	第10・11図	10	SK 1003
			SK－06	第３・12図	5・11	SK 1004
			SK－07	第13・14図	11	SK 1005
			SK－08	第16～18図	12・13	SK 1006
			P－106	第３図	5	P 1007
			P－116	第３・19図	5・13	P 1008
			P－119	第３・20図	5・13	P 1009
			SD－01	第３図	5	SD 1010
			SD－02	第３図	5	SD 1011
			SD－03	第３図	5	SD 1012
			SD－04	第３図	5	SD 1013
			SD－05	第３図	5	SD 1014
			SD－06	第３図	5	SD 1015
		２区	SK－01	第４図	6	SK 1016
			SK－02	第４・25図	6・18	SK 1017
			P－008	第４図	6	P 1018
			P－012	第４図	6	P 1019
			P－016	第４図	6	P 1020
			P－019	第４図	6	P 1021
			P－024	第４図	6	P 1022
			P－028	第４・26図	6・19	P 1023
			P－029	第４図	6	P 1024
			SD－01	第４・27・28図	6・19・20	SD 1025
			SD－04	第４・29図	6・20	SD 1026
			SD－05	第４・30図	6・21	SD 1027
			SD－06	第４・31図	6・21	SD 1028
			SD－07	第４・32・33図	6・21	SD 1029
『小山遺跡 発掘調査報告書』 1999	第３地点 第２次調査		落ち込み－１	第３図	4・5	SX 2001
			落ち込み－２	第３図	4・5	SX 2002
			SK－01	第５図	8	SK 2003
			SK－02	第５図	8	SK 2004
			SK－03	第５図	8	SK 2005
			SK－04	第５図	8	SK 2006
			SK－05	第５図	8	SK 2007
			SK－06	第５図	8	SK 2008
			SD－01	第７・８図	10	SD 2009
			SD－02	第７・９図	10・12	SD 2010
			SD－03	第７・９図	10・12	SD 2011
『小山遺跡 第２地点 発掘調査報告書』 1998	第２地点		SA－01	第31図	36	SA 2501
			SA－02	第49図	50	SA 2502
			SB－01	第54図	55	SB 2503
			SB－02	第48図	50	SB 2504
			SK－07	第14図	22・23	SK 2505
			SK－09	第50図	51	SK 2506
			SK－10	第15図	24	SK 2507
			SK－12	第50図	51	SK 2508
			SK－17	第14図	22・23	SK 2509
			SK－21	第50図	51	SK 2510
			SK－26	第26図	32	SK 2511
			SK－28	第25図	31	SK 2512
			SK－31	第34図	38	SK 2513
			SK－34	第32図	36	SK 2514
			SK－39	第37図	40	SK 2515
			SK－42	第50図	51	SK 2516
			SP－01	第45図	47	SP 2517

表３　小山遺跡遺構番号対照表（2）

報告書名	調査地点等	調査区	報告書遺構No.	挿図番号	報告書掲載ページ	変更後遺構No.
『小山遺跡 第２地点 発掘調査報告書』 1999	第２地点		SE－01	第20図	27	SE 2518
			SE－03	第56図	56	SE 2519
			SE－04	第18図	25	SE 2520
			SE－05	第52図	53	SE 2521
			SE－06	第29図	35	SE 2522
			SE－07	第55図	55	SE 2523
			SD－01	第６図	12	SD 2524
			SD－02	第５・８図	10・11・14	SD 2525
			SD－03	第11図	18	SD 2526
			SD－04	第12図	19	SD 2527
			SD－05	第58図	57	SD 2528
			SD－06	第20図	27	SD 2529
			SD－07	第37図	40	SD 2530
			SD－09	第32図	36	SD 2531
			SD－10	第34図	38	SD 2532
			SD－11	第34図	38	SD 2533
			SD－12	第32図	36	SD 2534
			SD－13	第41図	44	SD 2535
			SD－14	第46図	48	SD 2536
			SD－15	第22図	29	SD 2537
			SD－16	第22図	29	SD 2538
			SD－17	第58図	57	SD 2539
			SD－18	第34図	38	SD 2540
			SD－19	第20図	27	SD 2541
			SD－20	第37図	40	SD 2542
			SS－01	第59図	57	SS 2543
			SX－06	第43図	46	SX 2544
			SX－07	第44図	47	SX 2545
			SX－08	第16図	24	SX 2546
『小山遺跡 第３地点 発掘調査報告書』 2002	第３地点 第３次調査		SA－01	第５図	8	SA 3001
			SB－01	第６図	8	SB 3002
			SB－02	第７図	9	SB 3003
			SB－03	第９図	10	SB 3004
			SE－01	第10図	11	SE 3005
			SK－01	第12図	12	SK 3006
			SK－02	第15図	15	SK 3007
			SK－10	第16図	16	SK 3008
			SK－17	第18図	17	SK 3009
			SK－18	第19図	18	SK 3010
			SK－19	第21図	20	SK 3011
			黒色土落ち込み	第３図	4･5	SX 3012
			SD－01	第３・27図	4・5・26	SD 3013
			SD－02	第３・27図	4・5・26	SD 3014
			SD－03	第22図	21	SD 3015
			SD－04	第22図	21	SD 3016
			SD－05	第３・27図	4・5・26	SD 3017
			SD－06	第３・27図	4・5・26	SD 3018
			SD－08	第23図	22	SD 3019
			SD－09	第23図	22	SD 3020
			SD－10	第24図	23	SD 3021
			SD－11	第３・27図	4・5・26	SD 3022
			SD－12	第25図	24	SD 3023
			SD－13	第25図	24	SD 3024
			SD－14	第３・27図	4・5・26	SD 3025
			SD－15	第26図	25	SD 3026
			SD－16	第３・27図	4・5・26	SD 3027
			SD－17	第３・27図	4・5・26	SD 3028
			SD－18	第３・27図	4・5・26	SD 3029
			SD－19	第３・27図	4・5・26	SD 3030
			SD－20	第３図	4・5	SD 3031
			SD－21	第３図	4・5	SD 3032
			SD－22	第３・27図	4・5・26	SD 3033
			SD－23	第29図	28	SD 3034
			SD－24	第３・27図	4・5・26	SD 3035

表4　小山遺跡遺構番号対照表（3）

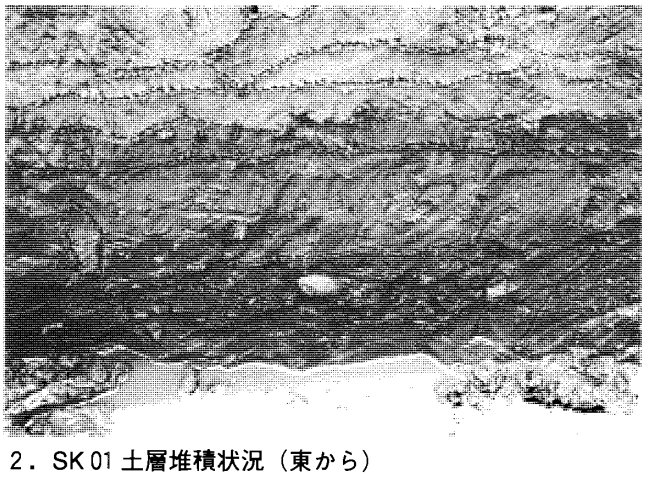
報告書名	調査地点等	調査区	報告書遺構No.	挿図番号	報告書掲載ページ	変更後遺構No.
『小山遺跡 第3地点 発掘調査報告書』 2002	第3地点 第4次調査		SI－01	第6図	9	SI 4001
			SA－01	第8図	11	SA 4002
			SA－02	第9図	11	SA 4003
			SB－01	第10図	12	SB 4004
			SB－02	第11図	13	SB 4005
			SB－03	第12図	14	SB 4006
			SB－04	第14図	15	SB 4007
			P－0311	第15図	16	P 4008
			P－0312	第15図	16	P 4009
			P－0314	第15図	16	P 4010
			P－0420	第15図	16	P 4011
			P－0421	第15図	16	P 4012
			P－0422	第15図	16	P 4013
			P－0423	第15図	16	P 4014
			P－0202	第17図	18	P 4015
			P－0225	第17図	18	P 4016
			P－0514	第17図	18	P 4017
			SE－01	第18図	19	SE 4018
			SE－02	第19図	20	SE 4019
			SE－03	第21図	21	SE 4020
			SE－04	第22図	22	SE 4021
			SE－05	第24図	24	SE 4022
			SE－06	第25図	25	SE 4023
			SX－01	第26図	26	SX 4024
			SK－01	第28図	27	SK 4025
			SK－02	第29図	27	SK 4026
			SK－03	第30図	28	SK 4027
			SK－04	第32図	30	SK 4028
			SK－05	第33図	31	SK 4029
			SK－06	第33図	31	SK 4030
			SK－07	第34図	32	SK 4031
			SK－08	第36図	33	SK 4032
			SK－09	第37図	34	SK 4033
			SK－10	第39図	35	SK 4034
			C 11 Gr 土器溜り	第42図	39	SX 4035
			A・B 11 Gr 土器溜り	第47図	45	SX 4036
			SD－01	第49図	47	SD 4037
			SD－02	第49図	47	SD 4038
			SD－03	第52図	50・51	SD 4039
			SD－04	第61図	62・63	SD 4040
			SD－05	第65図	67	SD 4041
			SD－06	第65図	67	SD 4042
			SD－07	第67図	69	SD 4043
			SD－08	第68図	70	SD 4044
			SD－09	第68図	70	SD 4045
			SD－10	第69図	71	SD 4046
			SD－11	第70図	72	SD 4047
			SD－12	第70図	72	SD 4048
			SD－13	第72図	74	SD 4049
			SD－14	第74図	76	SD 4050
			SD－16	第75図	77	SD 4051

表５　小山遺跡遺構番号対照表（4）

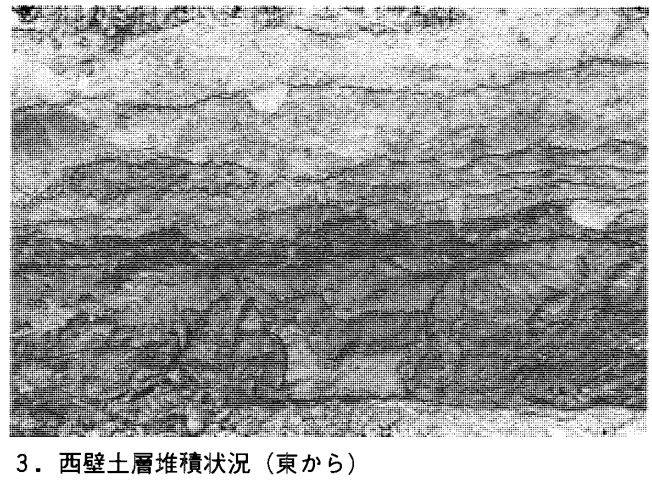
報告書名	調査地点等	調査区	報告書遺構No.	挿図番号	報告書掲載ページ	変更後遺構No.
『小山遺跡 第３地点 発掘調査報告書』 2005	第３地点 第５次調査	Ⅰ区	SD－01	第７図	10	SD 5001
			SX－01	第９図	13	SX 5002
			SX－02	第10図	14	SX 5003
			P－01	第11図	14	P 5004
			P－02	第12図	15	P 5005
		Ⅱ区	SK－01	第15図	21	SK 5006
			SK－02	第16図	21	SK 5007
			SK－04	第17図	22	SK 5008
			SK－05	第18図	22	SK 5009
			SK－06	第18図	22	SK 5010
			SK－10	第19図	23	SK 5011
			SK－11	第19図	23	SK 5012
			SK－12	第21図	24	SK 5013
			SK－13	第21図	24	SK 5014
			SK－25	第23図	24	SK 5015
			SD－01	第24図	25	SD 5016
			SD－02	第25図	26	SD 5017
			B２Gr－P－01	第26図	27	P 5018
			A６Gr－P－01	第27図	27	P 5019
		Ⅲ区	SK－01	第32図	35	SK 5020
			P－01	第33図	35	P 5021
			P－02	第33図	35	P 5022
		Ⅳ区	SK－01	第35図	38	SK 5023
			SK－04	第36図	38	SK 5024
			SK－05	第38図	41	SK 5025
			SK－06	第39図	41	SK 5026
			SD－01	第40図	42	SD 5027
			SD－02	第41図	42	SD 5028
		Ⅴ区	SE－01	第43図	46	SE 5029
			SD－01	第47図	50	SD 5030
			SD－04	第49図	51	SD 5031
			SD－05	第50図	52	SD 5032
			SD－06	第51図	53	SD 5033
			SX－01	第52図	54	SX 5034
		Ⅵ区	SK－01	第56図	60	SK 5035
			SK－02	第58図	63	SK 5036
			SK－03	第61図	65	SK 5037
			SK－04	第64図	66	SK 5038
			SD－02	第65図	67	SD 5039
			SD－03	第66図	68	SD 5040
			SD－05	第67図	69	SD 5041
			SD－06	第69図	70	SD 5042
		Ⅶ区	SK－01	第71図	74	SK 5043
			SD－01	第72図	74	SD 5044
			SD－02	第74図	77	SD 5045
			P－01	第75図	77	P 5046
		Ⅷ区	SK－01	第77図	81	SK 5047
			SK－02	第78図	81	SK 5048
			SD－01	第79図	82	SD 5049
			SX－01	第80図	83	SX 5050
			4 Gr－P－01	第77図	81	P 5051
			5 Gr－P－01	第82図	84	P 5052
		Ⅸ区	SK－01	第83図	86	SK 5053
			SK－02	第84図	86	SK 5054
			SD－01	第86図	89	SD 5055
			SX－01	第88図	90	SX 5056
			SX－02	第89図	91	SX 5057
			1 Gr－P－01	第90図	91	P 5058
			2 Gr－P－01	第91図	92	P 5059
			2 Gr－P－02	第92図	92	P 5060

写 真 図 版

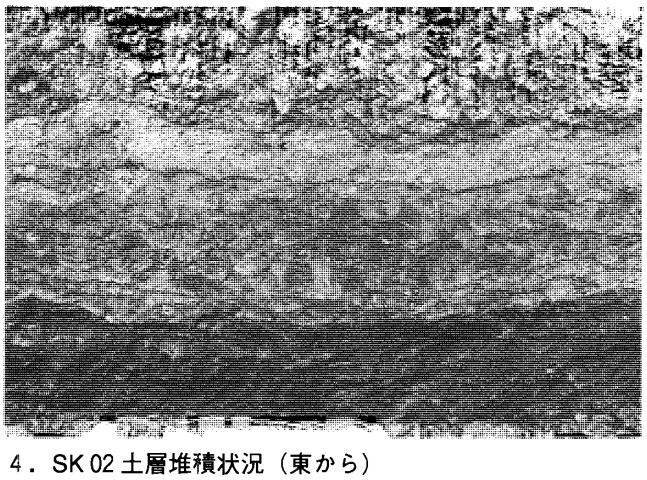
1．山持遺跡調査区全景（北から）



2．SK 01 土層堆積状況（東から）



3．西壁土層堆積状況（東から）



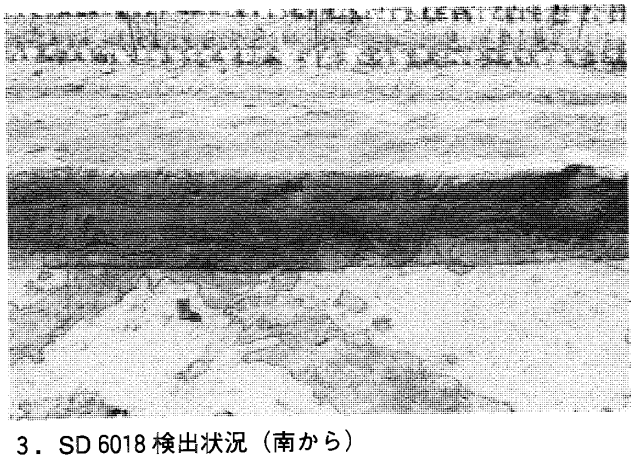
4．SK 02 土層堆積状況（東から）

5．出土遺物

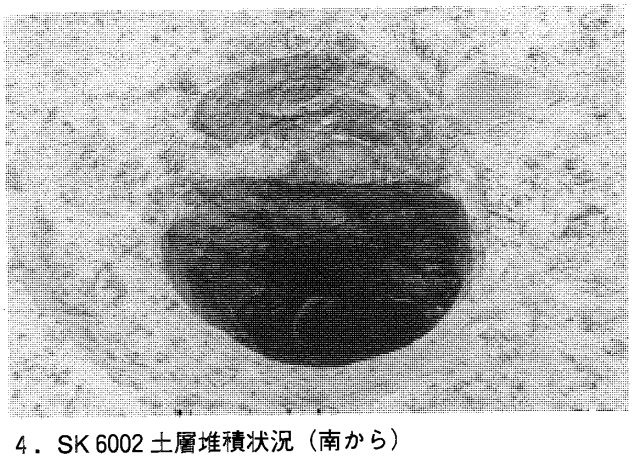
図版 2

1．小山遺跡遺構検出状況（西から）

2．小山遺跡遺構検出状況（東から）

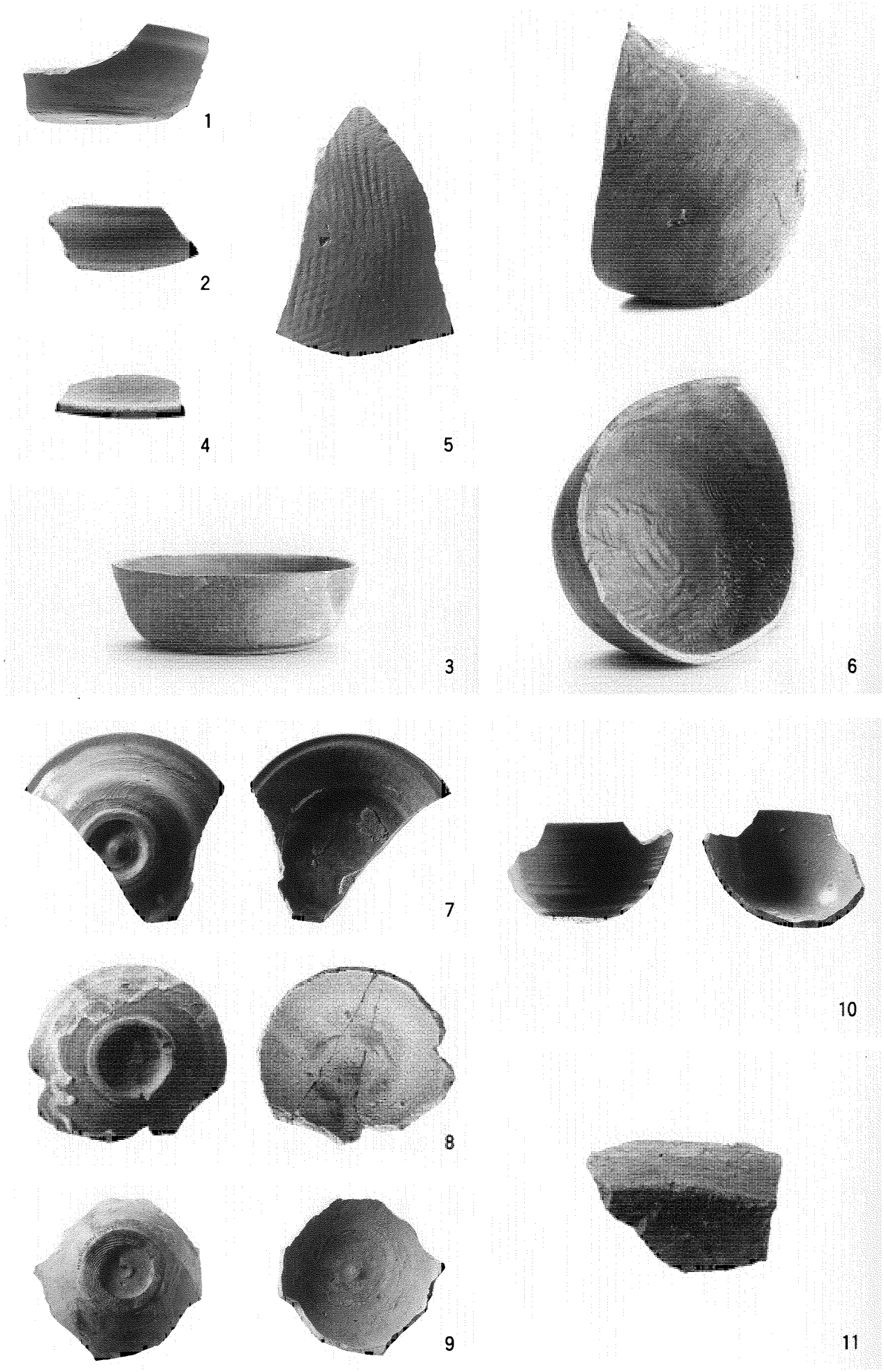


3．SD 6018 検出状況（南から）



4．SK 6002 土層堆積状況（南から）

5．SE 6020 土層堆積状況（北から）



小山遺跡出土遺物　1～6．須恵器　7～11．陶磁器

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうさんねんど いずもしぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	平成23年度　出雲市文化財調査報告書
副書名	山持遺跡・小山遺跡
シリーズ名	出雲市の文化財報告
シリーズ番号	20
編著者名	遠藤正樹　曽田辰雄
編集機関	出雲市教育委員会
所在地	〒693-0011　島根県出雲市大津2760番地　TEL 0853-21-6893
発行年月日	平成24年(2012)3月15日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査 期間	調査 面積 m²	調査 原因
ざんもちいせき 山持遺跡	しまねけん いずもし さとがたちょう 島根県 出雲市 里方町	32203	B 01 出雲市遺跡地図 1993.3 W 108 島根県遺跡地図Ⅰ (出雲・隠岐編) 2003.3	35° 23′ 45″	132° 45′ 53″	20090106 ～ 20090109	23	今市川跡日下線（2工区）道路改良事業
おやまいせき 小山遺跡	しまねけん いずもし おやまちょう 島根県 出雲市 小山町	32203	G 04 出雲市遺跡地図 1993.3 W 15 島根県遺跡地図Ⅰ (出雲・隠岐編) 2003.3	35° 22′ 38″	132° 44′ 42″	20070518 ～ 20070614	110	生活環境道路改良事業 四絡69号線

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山持遺跡	散布地	古墳	土坑	土師器	
小山遺跡	集落	古墳 奈良 近世	土坑 井戸 溝	土師器 須恵器 陶器	

要約	山持遺跡では，調査区周辺に古墳時代前期の遺構面が存在する可能性が高いことが分かった。 小山遺跡では，土坑や井戸などを確認した。今回の調査地は遺跡の北端と考えられていたが，遺跡の範囲はさらに北側に広がっていることが推定できた。

出雲市の文化財報告 20

平成 23 年度 出雲市文化財調査報告書
山持遺跡・小山遺跡

平成 24 年（2012）3 月 15 日

編　　集：出雲市文化環境部文化財課
〒693-0011 島根県出雲市大津町 2760
ＴＥＬ（0853）21－6893

発　　行：出雲市教育委員会
〒693-8530 島根県出雲市今市町 70
ＴＥＬ（0853）21－2211（代表）

印刷　製本：株式会社　報　光　社
出雲市平田町 993